

残すべきか、撤去すべきか、それが問題だ

◆さまざまな震災遺構、遺物について、後世に残すべきか撤去すべきか、いま議論が沸騰しています。

◆富岡町のパトカーや浪江町立請戸小学校は残し、双葉町の原子力推進の看板二枚は撤去することになりました。でも、小6の時にこの「原子力明るい未来のエネルギー」＜写真＞の標語が選ばれた大沼勇治さん(39・茨城県古河市在住)は、「撤去に反対。原発を推進してきた町の歴史や、事故の記憶を消すことになる」と、3月16日に伊沢史朗双葉町長に直接「保存」を陳情しました。

原子力明るい未来のエネルギー

福島県内市町村で初 南相馬市が＜脱原発都市宣言＞

○3月9日、ドイツのメルケル首相が来日し、「日本も共に脱原発を」と講演しましたが、南相馬市議会は復興計画の基本方針に「原子力に依存しない安心・安全なまちづくり」を掲げ、3月の市議会で審議し、3月11日、市の東日本大震災追悼式において桜井勝延市長が、県内初で全国でも珍しく脱原発都市宣言を発表しました。

南相馬市長
桜井 勝延



○この＜宣言＞の背景にはもちろん、東京電力福島第一原発事故により、6万人余の市民が避難を余儀なくされ大混乱におちいり、現在まで469人もの市民が関連死しました。そしていまだ放射能に対する多くの市民が不安をいだいて生活し、家族や地域が分断され翻弄されていること、憲法の諸人権がことごとく無視されてきたこともあります。この＜宣言＞は、再稼働をめざす政権に対し、歴史的な意義ある表明や発信となると確信します。

本会でも上映会の開催はどうでしょう？

説得力のあるドキュメンタリー映画

『日本と原発』弁護士河合弘之が初監督

原発訴訟などで辣腕をふるう河合弁護士が監督、構成監修海渡雄一弁護士(福島瑞穂さんの夫)、音楽新垣隆。この映画一本で、原発に関するすべての問題を提起し、解説も分かり易い。



支援者・会員からのお便り

■あきらめずに頑張ってください。どうぞ光を見つけて元気に立ち上がって下さい。一日も早い復興を東京よりお祈りしております。(東京の支援者、カンパや切手とともに)

■双葉町の間貯蔵場所が、最終場所になってしまうのではないかと。復興と聞こえてきますが、どこまで本当なのか？また“テロとの戦い”など戦争の形態が変わってきて次世代はどんな世の中を生きるのか心配です。もの言えぬ日本人はどうなるのでしょうか？(町田市 Kさん)

■震災から4年ですが、テレビの震災のニュースで、事故の原発の姿、汚染水の危機的状況、黒い廃棄物の袋の山、津波あとの海岸線、仮設の様子、安倍首相のウソの言葉などを見聞きしたくありません。吐き気がします。震災や放射能に関係のない所に行きたい。(原町区 Sさん)

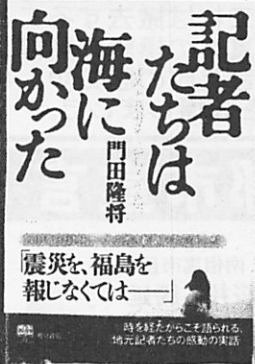
■はらまち九条の会との交流ありがとうございます。月2号の発行の会報、すごいです。中味も濃い！私たち若葉台九条の会でも、昨年夏からブログを立ち上げ、ニュースも月一回A3片面で出せるようになり、嬉しいです。1月に秘密法関連で『宮沢・レーン事件』のDVDを見ました。私たちは“法”をやめさせる権利もあるし、集団的自衛権を行使させない力をたくわえたい。私もはらまち九条の会会員に加えてください。(横浜市旭区若葉台 Kさん)

■会報で紹介のあった『被ばく列島』を読みました。「飯舘村の年農業生産額が17億円。除染費用が850億円で農業生産額の50年分。一人1億円与えて移住してもらったほうがいい。除染はナンセンス。」など、政府やNHKのニュースとは違う考えです。大手ゼネコンのための除染なのかと腹が立ちます。(原町区 Wさん)



読書案内

『記者たちは海に向かった 津波と放射能と
福島民友新聞』 門田隆将著 角川書店 ¥1,600+
税 倉本聰の舞台劇『ノクターン』にも登場
していますが、鹿島区烏崎の海岸付近で、住民



を誘導して大津波の犠牲になった福島民友新聞社南相馬支局の熊田由貴夫記者(24)のこと。大震災直前の2月の本会主催の『中国引揚げ漫画展』にカメラを肩に笑顔で取材し二日連続で新聞に掲載していただき、入場者が増えたことを思い出します。相双地区の他記者たちの、命懸けの取材の様子も克明に描かれています。

『さまよえる町 フクシマ爆心地の「心」の声を追って』 三山喬著 東海大学出版部 ¥1,800+税 小高区の会員青田利幸さんから「ええ本だどー」と推薦されました。主人公は大熊町を故郷にもつ一人の男。避難先では白眼視にあい、すべてを失った人々の、苦しみやもがきの声、中央の無関心ぶりを描いています。

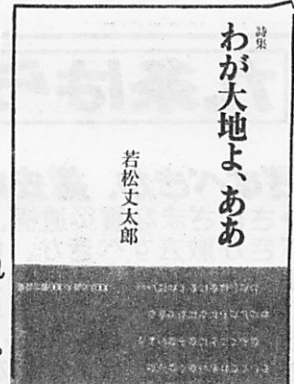
『詩集わが大地よ、ああ』

若松丈太郎著
土曜美術社出版販売
¥2,300+税

若松さんは原発事故の先覚的な詩「神隠しされた街」(1994年)で広く知られ倉本聰さんの『ノクターン』創作の契機になりました。

この詩集は震災後の33編の作品集で、冒頭の「見える災厄、見えない災厄」では、南相馬市の沿岸部の古里の数十の字(あざ)、小字の地名が列挙され、その地名にまつわる故事来歴も考察。「町がメルトダウンしてしまった」「逃げる 戻る」「ひとのあかし」「なかったことにできるか」など、原発被災民として、そうだ、そうだ、この詩のとおりだ、と怒りとともに何回も読み返したくなります。

また、関東地方の人々に被災地南相馬市を知っていただくためには、若松さんの著書『福島核災棄民』(コールサック社 ¥1,800)を一押しで推薦申し上げます。原発建設以前の状況、事故直後の市民の避難や体験を伝えるには最適です。加藤登紀子さんが歌う「神隠しされた街」のCDも付いています。



《事務局より》



3月16日の事務局会で、次のことを話合いました。

<「はらまち九条の会」これからの活動>

- ①市当局による『憲法』小冊子発行、市内全戸への配布を陳情 ○3月25日頃に結論が出るそうです。議員さんに期待してお待ちしましょう。
- ②総会の開催 ○10月18か25日(日)原ノ町駅前の中央図書館で。松元ヒロさんの憲法漫談?
- ③4月26日(日)旭公園での「春の市民まつり」に参加。○「9条にノーベル賞を」の署名集め、憲法改定などの賛否シール貼りなど。
- ④5月3日、「護憲チラシ」を市内新聞に折り込む
- ⑤映画『日本と原発』上映会 ○朝日座で?
- ⑥本会設立10周年記念事業として、「会報101号~260号集録」発行 ○8月15日、300部発行。図書館などに寄贈。広く、カンパで頒布する。

小百合さ〜ん
原町にも来てください!!

総会に来て若松丈太郎さんの詩や市民を励ます詩を朗読していただきたいのですが、新しい映画撮影で日程がとれないということでした。でも、そこをなんとか...!? ◆ようやく花の季節になりました。

『憲法』発行を市に請願したり、「脱原発都市宣言」の経緯や結果、今後の活動を載せようとしたため、会報の発行が遅れてしまいました。また、県外の遠くに避難した会員や関東の人々も意識し、さらに震災や戦争の記録も欲張って編集しています。事務局会議で検討して、作り直しも多いので、時間がかかります。ご理解ください。(山崎)



<「はらまち九条の会」事務局員連絡先> 市外局番は、TEL0244

- 会長: 平田慶肇(ひらたけいいち) TEL24-1211
○事務局長: 山崎健一 TEL090-7527-5453 Eメール: yamazakiken1@gmail.com
○会計: 井上由美 〒975-0031南相馬市原町区錦町1-43井上薬局内 TEL22-7511・FAX26-0892
○石田賢二 TEL22-4037 ○早坂吉彦 TEL22-0326 ○番場恵子 TEL22-0715 ○志賀勝明
○ホームページ担当: 大浦祥見 TEL24-0704 : 栗村文夫・桂子 TEL090-8851-6904

